

「第六回 福島県学童クラブ研究集会」を開催しました

猪狩利江

福島県学童クラブ連絡協議会 副会長

福島県学童クラブ連絡協議会（以下、県連協）は、二〇一二年六月三日に設立されました。このたび、設立から六回目となる「福島県学童クラブ研究集会」（以下、研究集会）を、二〇一七年五月二八日に開催しました。

研究集会は、県連協の総会にあわせて開催しています。研修のみだけでなく、被災地視察や県議会への要請行動など、県連協の活動にも関心を抱いていただく機会となればと考えているからです。

福島県は東西南北に広く、その面積は国内で第三位。歴史的に有名な「会津地方」、福島市や郡山市などを中心とする「中通り地方」、太平洋に沿った「浜通り地方」、それぞれの地域は、気候も地域性もさまざまです。県内の放課後児童クラブは公設公営も含めて多様な運営形態で実施されており、これまで、県内をまとめる

にはむずかしい状況がありました。

東日本大震災後、全国学童保育連絡協議会（以下、全国連協）の呼びかけによって県内の学童保育関係者が集い、何度も話し合いを重ねて、ようやく県連協ができました。組織としては、「福島市学童クラブ連絡協議会」と「いわき市学童保育連絡協議会」を中心に、単独の放課後児童クラブや個人会員も加盟して成り立っています。福島県内には、一三市三一町一五村の自治体がありますので、まだまだ小さい組織です。

二〇一七年度の研究集会は、県内のほぼまんやかに位置する郡山市で開催しました。じつは研究集会は、参加者の利便性を考慮して、第四回から郡山市で開催しています。そのこともあってか、おかげさまで少しずつ参加者が増えてきています。郡山市には現在、市連協がなく、県連協に直接加盟している学童クラブが二

か所あります。他市に住む県連協の役員が研究集会前日から郡山市を訪れて準備をしますが、郡山市の二つの学童クラブの職員と保護者会の手助けがなければ、開催は困難だったと思います。準備段階の会議も、共通認識を持つために、研究集会の会場となる場所で行いました。郡山市内で継続的に実施することで、県連協の存在を県内に広く周知したいと考えたからです。ただし、開催地の負担をできるだけ減らすことも考慮しました。

第六回の研究集会は、「タイムリーな話題をとりあげ、実際に現場で役に立つ研修にしよう」ということで計画が進められました。そして、「貧困や虐待などの子どもを取り巻く環境の問題」「診断の有無にかかわらず特別に支援を必要とする子どもが増えていること」「放課後児童支援員としての技術力アップの必要性」「放課

後児童クラブをめぐる国や自治体の情勢」などのテーマが出され、全体講演と五つの分科会の内容が決まりました。分科会の講師も、外部に依頼するだけではなく、県連協の役員のなかからも選出し、人材の養成も兼ねて、集会の運営費をおさえる努力もしました。それぞれの役員は、これまでさまざまな研修に参加していますが、実際に運営を担当することになると勝手が違ってくることもありま

す。あしかけ六年間、研究集会を継続してきたことで、運営のノウハウも身につけることができました。

また、今回の研究集会は、これまでになく多くの国会議員の方や秘書の方（計六名）が来賓として出席してください。県の担当課長もおどろいていました。放課後児童クラブへの関心の高さが感じられます。

参加者数は、六市五町二村から

一六三名でした。全国各地から全国連協に寄せられた「東日本大震災学童保育募金」を活用して参加補助をしたのはそのうち七名。参加者用に大型バスの手配をした福島市連協・いわき市連協へバス代の補助も行いました。

* * *

震災以降、全国の方々からたくさん支援を県連協にお寄せいただきました。感謝しても、しつこくないものがあります。その思いに応えるべく、県内の放課後児童クラブの質の向上に貢献できるように、県連協を通じて研修の機会を増やしていきたいと考えています。そのためには、県連協の会員を増やしていくこと、市町村内の連絡協議会の設立を推進していけるような体制づくりも必要となってくるでしょう。県連協の今後の課題として考えていきたいと思っています。